



南嶺子

1曾5
47
1



門 1 曾
浦 77
卷 1

南嶺子叙

徽霖縹霽。祝融司令。高其鋒。冒解。吾
于杆窗之下。南嶺子。偏訪。道。譚餘
又示其所著冊子。之集。隨。閱。見。輒
筆。之。湯。錄。群。載。等。資。謬。柄。者。
每。慮。出。十。分。之。一。曰。幸。嶺。子。

南嶺子叙

予叔子以爲難之。曰：乃學不修，則已。修則當修有用之學矣。

古先聖王之經國甄陶，固由之風習。等社於順流，行舟夾塗，推車而白，而夾馭高遠，福去理何益焉。蓋謂吾東方以掌故者流，建旌幟者，類謂

本邦自有其典故，詎必求異域。其澠茅鹵莽，固不誤論。南嶺子名光樹，字公亮，號秋齋。南嶺公，號者以多田爲氏。其系出自漁氏，多田，滿仲，遠裔也。其爲人也，襟宇浩達，不矜不瑣，事不遜，時俗而不知者，以爲矜誕。

始安。知者以為希世宏業。于此博綜
強記。又有獨得之見。專研究故典。首
闡的神史之經秘。故獨處視當世。名
聲藉甚。講道。 犖轂之下者有年。
時或翱翔于東都。尾尾瀟瀟之間。以道
謁于千乘之君者。亦不為少。而于所著

著業。若干卷。炳焉如觀火。率以中
夏歷代之沿革。參互會通。遂得是
正。後還京。仕于竹園。懿親王家
更。詔桂氏。此善有所中。括云。見屬序
予。辭以不文。而不許。因陳其梗槩。以
為弁言。 南嶺子

寬延古己歲六月南海陶冕諱



[Faint, ghostly calligraphy visible through the paper, likely bleed-through from the reverse side.]

南嶺子序

桂子取着南嶺子三卷之序
世患之惑其理而不知其正確
傳讀者至不自厭駭之而猶思
者宜能知桂子當以善之書
數千款為書建初撰筆以成

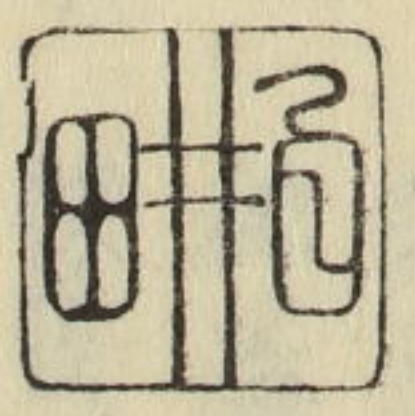
南嶺子
序
美系接子桂子本姓莆田之先
自振之莆田源且出之其為人
豪放之少教小者博學多記可
古熟 吾邦之典古以正名爲
學古因國史乃其書出而證其
好論神書之派其如的者多之不

之巫祝語怪禱儒說理附之以
神道之虛無編成一書以教焉
從而學者淺之有而少者轉曲
學又而放人於是乎致矣會稽
紀多自傾書於東坡二十五年如
一日初桂子遊東武又如臣陳

法之族方人受之者多而之亦培
是子多涉時之喘之也且終
年於此亦在桂子志之卷不
以方毀毀譽之也哉桂子必
先植孝以實南之頭主之也辨也
本就之語序也亦序以題

定正己已之序序

讀政 良言之仙耕播



蕭巖子也 序

南嶺子 引用書目

周禮 禮記 詩經

書經 說文

爾雅 春秋左氏傳 呂氏春秋

國語 史記評林

孔子家語 淮南子 文選

漢書 宋史

韓文 列仙傳 閩書

論語大全 稗海

群書治要 輟畊錄 字彙

事物紀原 陳氏樂書

蓋溪筆談 武備志 登壇必究

經國大典 本草綱目

東醫寶鑑 吳子 唐書

孫子 唐李涪刊誤

法華經 萬行首楞嚴經 佛本行經

傳燈錄 佛祖統紀

宋高僧傳 續高僧傳 釋氏要覽

南海寄歸傳

日本書紀 續日本紀 續日本後紀 日本紀略 三代實錄

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

古語拾遺	令義解	令集解	延喜式	貞觀儀式
北山鈔	文德實錄	雜律	江家次第	朝野群載
類聚雜要	類聚三代格	倭名類聚鈔	本朝文粹	釋日本紀
拾芥鈔	東鑑	玉塵鈔	梁塵愚按鈔	玉海
野府記	二水記	太平記	庭訓往來	新申樂記
明衡往來	方丈記	源氏物語	神皇正統紀	徒然草
高下りの記	萬葉和歌集	古今和歌集	新古今集	伊勢物語
平家物語	太閤記	禁秘鈔	明月記	枕草紙
定活拾遺物語	長秋記	園大曆	大和物語	園槐鈔
百練鈔	類聚國史	神社啓蒙		

右引書通計凡九十七部

南嶺子 目次

一	湖船風波論	二	七福神話
三	漢耽僂者論	四	三年喪義
五	漢風ヲ好異人説	六	文字ヲ知テ誤己話
七	觀音ノ歌ノ義	八	儒佛賢愚ヲ分論
九	梵語ノ義	十	天竺牛糞ヲ崇ム説
十一	巫覡ノ義	十一	儒佛ノ徒神事ニ戻義
十三	天皇氏地皇氏ノ義	十二	神代人代ノ論
十五	博奕古ヨリノ禁	十四	神國ト云ノ義
十七	藪ニ香物ノ諺	十六	兼好長明ノ論
十九	不定日ノ義	十八	人相ノ論
廿一	聖徳王ノ考	廿二	古代遊女ノ義

卅三 傀儡ノ説

卅五 永樂錢ノ事

卅七 古ノ婚禮ノ義

卅九 牛ニ用テ捕サントスル論

卅一 倭奸忠良ニ似タル義

卅三 方語郷談ノ事

卅五 古ニ云百姓ハ百官ノ義

卅七 藥ノ精論ヲナス話

卅九 古今和歌集序詞ノ事

卅一 直物袋漢土ノ證文 并

卅三 忌鉄藥ノ論

卅五 獅子舞ハ唐ノ太平樂ト云考

卅四 坂口羽教示

卅六 僧ノ髻アハ非法ノ義

卅八 味嫁女不結髮ノ事

卅九 善人ニ親ムヘキ事

卅一 朱ヲ奪フノ紫ハ今紫ト別ル考

卅三 言語ノミルトナラザル論

卅五 庸醫醫人ノ義 并六尺ノ字

卅七 感狀ハ佐ノ木語ト云誤ヲ解

卅九 庭訓往來ノ考

卅一 牡丹花老人ノ事

卅三 空理字ノ事

卅五 一男ハオタラサルノ咎 并清盜ノ

四六 正成朝臣漆川ノ義

四八 平魚ヲ賀祝ニ用ル事

四九 神前湯立ノ事

五〇 真官人衣ヲ着セシ事

五一 嫡子長子ノ分

五二 猿樂段ヲ取事

五三 外宮文庫ノ事

五四 蕎麥ヲ解事

五五 極樂ノ字

五六 柳本人麿ノ事

五七 猿樂古今ノ異

五八 忠臣良臣

四七 六月被火剋金ノ説

四九 祢宜ノ字義

五一 神事ノ舞女ヲ市ト云義

五二 鳥井ノ考

五三 二谷字ノ事

五四 真野氏撰書ノ事

五五 桃花ノ事

五六 子タハノ字

五七 夏程ト云名ノ起リ

五八 猿樂ノ伎目

五九 高砂謡曲

六〇 富士ノ三尊

七下 闇魔印

七下 盲人紫服

七下 海字ノヨミ事

七下 蛇猫ノ争

七下 痘瘡ノ鬼妖

七下 古代米價

七下 安國氏家妖

七下 神道者異名ノ事

七下 孔子見南子ヲ義

七下 三三間堂棟梁ノ事

南嶺子四卷九十條

七上 理学ノ惑

七上 遊女クニ分事

七上 主水掃部ノ事

七上 鯨口ノ事

七上 物皆相畏ナル事

七上 天照大神ニ民家ニ祭論

七上 野狐ヲ祀ル論

七上 佛書ハ吳音ニ云ト云テ誤ヲ辨ズ

七上 契仲ヲ論ズ

七上 極樂地獄ノ義

南嶺子卷之一

秋齋桂先生著

門人

松尾 守義 山中 秀蕃

同校

一才

○少り一時東近江ゆくとそ大津なる石場よりゆめ。紅毛出はくして只二艘いま出るといふ。やど便邪なりよ。琵琶なり。以てはこれなり。

子もあふしの西はまき。あひつらね。信然としてその字色あり。

此敵おろしあはれ。さうなるといふ。湖の道はつら。て。船もや。家

司。い。ま。さ。ま。悟。い。あ。い。の。あ。ぞ。遠。さ。の。家。人。あ。る。と。さ。ら。中。は。さ。や

あ。あ。ま。は。え。と。あ。ら。り。お。の。ま。い。の。み。を。見。れ。鳥。帽。子。津。衣。は。大。禱

あ。け。ま。づ。れ。お。は。人。あ。り。り。い。と。く。神。力。を。以。て。け。風。ま。り。了。を。

柏。ひ。い。え。く。高。天。原。よ。計。は。ゆ。り。ま。る。後。を。う。り。か。け。に。科。戸。の

風は吹くふとをさういふは根國底國は氣吹放末を。飯頃に此失せん
しよしよほく。風をほめてつゝなる人皆をさしひうなるが命のあ
ちると。輪袈裟かけ老僧。あつりつが院に冥感あつたぞ金づりては
船中と救せん。光明をさういふ。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。
船よさういびきや。山伏びんとたきあがり。さぞよ文をよ入る。船中の難と
たをきんを。龍をちくちく。れ。倒れあつた。さぞよ。優優。優優。優優。優優。優優。
野よ。山おぬ。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。
どつちあつた。大信をさういふ。浸を。山伏もあつた。舟はほらびぬ。船中と
いふ。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。
うけせん。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。

るものち。船を片田つとて人かき。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。
よのよ。山おぬ。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。
ついても。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。
陽と。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。
を。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。
勝。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。
あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。
あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。
あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。
あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。

○世も七福神のいけおしふおあり。漢土の市袋。日本は軽兒。天竺の
 吉祥未女。あはさるらねり。格も貪慾。去流の物好。なぐり。是も
 早貨。誦もせ。煤はつき。小流り。紙表具。つれ。軒も。ぬれ。ぬ。ぬ。の。能。え
 人。と。た。の。ゆ。ぬ。を。出。来。づ。く。し。て。い。ま。う。人。の。福。を。興。ふ。べ。ま。る。壽。の。字。書。う。る
 盃。と。持。病。糸。松。竹。の。徳。を。め。向。ひ。ふ。秋。万。葉。の。小。徳。よ。は。は。れ。な。ま。も。
 倚。か。病。を。お。う。り。て。お。を。た。た。た。の。流。き。あ。り。苦。を。て。け。ん。う。り。え。七。五。二。福
 引。あ。く。神。乃。者。なり。と。し。け。い。さ。か。あ。も。なる。ゆ。ぐ。あ。が。仏。法。の。信。を。し。
 眼。筋。め。く。障。も。お。も。り。も。お。も。り。も。お。も。り。も。お。も。り。も。お。も。り。も。お。も。り。も。お。も。り。も。
 猪。宗。の。身。院。立。け。り。ぬ。り。終。る。法。の。信。者。と。す。神。境。の。人。なり。ゆ。り。も
 い。ん。あ。き。い。ん。只。是。國。の。風。俗。く。なり。なり

○儒者より。西國の神。た。と。難。ド。も。と。う。り。道。を。こ。國。を。こ。誦。子。類
 多。神。代。ま。ま。伊。勢。諸。尊。伊。勢。再。考。此。鶴。尾。の。尾。と。揺。げ。と。看。て。乳
 子。な。り。て。交。道。と。ぬ。ぬ。わ。り。と。詩。經。よ。鶴。尾。在。原。宜。子。兄。弟
 と。あ。る。と。い。わ。る。う。り。の。あ。て。兄。弟。支。持。な。れ。と。て。妹。兄。と。い。ふ。を。あ。ら。ん
 日本書紀。雄略天皇。き。き。り。妹。書。爲。妹。蓋。古。之。俗。乎。と。の。を。あ。り。
 用。明。推。古。の。と。う。り。を。も。鹿。妹。と。后。と。い。ぬ。を。も。了。つ。の。お。あ。り。○
 禪。海。の。い。ふ。書。ふ。世。の。侍。女。媼。と。伏。義。の。妹。なり。而。し。て。支。持。と。なる。是
 よ。の。生。民。流。息。も。の。也。舜。と。堯。の。女。娥。皇。女。英。二。人。を。妻。と。し。て。婦。と
 妹。と。い。て。擊。り。今。と。取。蘇。む。を。人。も。お。も。り。も。い。ふ。う。り。は。是。の。時。の
 ぬ。り。し。る。あ。ま。し。と。禮。と。製。さ。ら。む。し。と。製。さ。ら。む。し。と。後。の。さ。ら。む。と

ことしはつづつなり。今の儒者らも書とよみまじりて物類とも
辨別し譯文の修飾など。左氏傳の金と。器物より始りてその
ありの物とをさし。あつちまをさぐる。あつちと夷狄とをわきま
事と。い。あつちも善物なれば。あつち邦に對しての罪人なる。漢と
と。後漢國号か。りて唐といひ。宋といひ。明といひ。清といひ。通号と云
が。これふを。漢以來年号と建。今の清は。至ふまで。ある。り。明
は。年号と受ふ。諸は。より。い。も。中。義。とい。べ。夷狄の。は。年号。が。あ。つ。ち
り。明。安南。は。よ。き。む。く。年号と建。い。も。つ。づ。づ。の。き。つ。づ。大日本國と
文武天皇の大寶といふ年号より。今。寬延。き。く。あ。つ。ち。り。明。年号連
續の。ふ。と。下。つ。つ。大日本と清とあつちの。明。と。い。は。し。む。い。ん。あ。り。を。さ。ら。う。兵。音。を。用。き。た。か。あ。つ。ち。

清の王と。い。れ。何。を。中。義。の。天。子。と。稱。し。ん。大日本は。天子は。し。く。年号
あり。の。國。を。い。は。す。中。義。の。い。

四

禮記 曲禮上 曰。入竟而問禁。入國而問俗。と云く。然る。よ。今。の。儒。者。
神。乃。と。議。ふ。禮。記。を。よ。む。と。あ。つ。ち。ま。を。さ。ら。う。と。あ。つ。ち。曲。禮。下。に。君。子。行。禮。
不。求。變。俗。祭。祀。之。禮。居。喪。之。服。哭。泣。之。位。皆。如。其。國。之。故。謹。脩。其。
法。而。審。行。と。い。ふ。と。あ。つ。ち。ま。を。さ。ら。う。の。祭。法。と。あ。つ。ち。國。風。の。服。と。あ。つ。ち。
三。年。で。あ。つ。ち。神。を。を。造。る。と。周。代。の。尺。と。寸。ゆ。と。あ。つ。ち。風。と。度。ら。う。の。こ。ま。
あ。つ。ち。禮。記。に。あ。つ。ち。有。り。と。儒。者。と。あ。つ。ち。い。は。し。む。と。あ。つ。ち。あ。つ。ち。
或。は。中。に。二。十。口。の。杖。持。を。あ。つ。ち。り。儒。者。あ。つ。ち。り。あ。つ。ち。も。孔子。の。あ。つ。ち。
よ。せ。ん。と。儒。者。あ。つ。ち。あ。つ。ち。を。い。は。す。沽。酒。沽。脯。食。を。い。は。す。と。酒。と。あ。つ。ち。方。を。い。

五

釀一製（つくりかた）もよまめてやを周人めて諸物を一（ひと）らるるの
の（か）果（は）一（つ）らるる漢器をそのゆりたるを周も承れを大小
のよ真（まこと）と銘又の劍（けん）のよ日本の刃物（やいば）の流（なが）れくもそのひ方（かた）は色
ま度（た）序（し）をひつらるるに武門（ぶもん）のまをさるるもの文武周孔の
時代（じ）の周（しゅう）をたそ一切（いっせ）のよと周の製（つくり）をよまんとそなくも官途（くわんと）品級（ひんきゅう）
の次第（し）の職（しやく）のてい（てい）を周禮（しゅうらい）ゆてまも考（かう）らるるもそのめても太古の
るをた今（いま）の用（もち）は充（ちやう）てい考（かう）らるる事（こと）の形（かたち）を（た）るるが日本（にっぽん）の
製（つくり）もくもあつちやうもまもにちるもの形（かたち）はひちんとらるる彼
儒者（にゅうしや）の色（いろ）はちやうもあつちやうもまもにちるもの形（かたち）はひちんとらるる彼
製（つくり）と果（は）のよ一（つ）らるる更（さら）に一（ひと）とそまもあつちやうもまもにちるもの形（かたち）はひちんとらるる彼

智（ち）と非（ひ）を法（は）ぶ小思（せうし）ひはるるかまのりやるる（し）五（ご）穀（こく）と考（かう）
殊（しゆ）周（しゅう）の考（かう）らるる考（かう）らるる漢（かん）の殊（しゆ）を考（かう）らるる日本（にっぽん）の一（ひと）合（が）と一（ひと）殊（しゆ）の漢（かん）書（しよ）は
牛（うし）一（ひと）疋（ふた）廿（に）六（じゆ）斛（こく）を考（かう）らるる考（かう）らるる日本（にっぽん）の二（ふた）石（しやく）六（じゆ）斗（と）よあつちやうも
る二千（にせん）人（にん）扶持（し）を考（かう）らるる一（ひと）ケ月（げつ）は四（し）石（しやく）五（ご）斗（と）つとせ一年（いちねん）ふつりある
る五（ご）十（じゆ）石（しやく）五（ご）斗（と）は考（かう）らるる周（しゅう）製（つくり）漢（かん）製（つくり）もくもあつちやうもまもにちるもの形（かたち）はひちんとらるる彼
も漢（かん）の殊（しゆ）と考（かう）らるる一人（ひとり）は五（ご）石（しやく）五（ご）斗（と）は考（かう）らるる一（ひと）ケ月（げつ）は四（し）石（しやく）五（ご）斗（と）つとせ
三千（さんぜん）日（にち）は石（しやく）五（ご）斗（と）十二月（じふにげつ）の内（うち）大小（だいせう）のちひひつらるるあつちやうもまもにちるもの形（かたち）はひちんとらるる彼
石（しやく）と漢（かん）の法（は）めて考（かう）らるる日本（にっぽん）の五（ご）石（しやく）五（ご）斗（と）は考（かう）らるる一（ひと）ケ月（げつ）は四（し）石（しやく）五（ご）斗（と）つとせ
五（ご）斗（と）の考（かう）らるる五（ご）斗（と）つとせは考（かう）らるる考（かう）らるる日本（にっぽん）の二（ふた）石（しやく）六（じゆ）斗（と）よあつちやうも
考（かう）らるる漢（かん）法（は）めて考（かう）らるる考（かう）らるる日本（にっぽん）の二（ふた）石（しやく）六（じゆ）斗（と）よあつちやうも
考（かう）らるる漢（かん）法（は）めて考（かう）らるる考（かう）らるる日本（にっぽん）の二（ふた）石（しやく）六（じゆ）斗（と）よあつちやうも

西月十人一月は斗五升のくを飯米も是なり全米あやまり
へりまぶとして漢流とやめしめり。げが勝はよなりぬるいそのまは日
古格ふはを抜のゆるゆるなり異國の風とまら國の俗は疾るや
早きといふの字同よまのがれらね者いふは。板漢の外とちを
樊哈斗酒とよけり日かやくの二升りつとさるふあは。吳邦も
井次身ふたはなり今日日本の五合ふあち後と一升の萬事は
以家日本の大なる事と案んたべ

六和

○文字を用と違はるごとく思ふると書の一はとまらひやうと記
ゆとまらふやちと違はるの文字とあく事と指あつて外は定まる事
おとまらふの事なり之くあやまりあり文字と今ち改めて俗ふは

ぢがれた。文字の益なり。あま或学者せんを脾胃よくも合
ぶのこよりり。一階醫者のもくまして今日鞋をひひらぐとて
しつらやとせり。返るのよはく。功成るもよあれた。
やごてまらふやとて。まらふとて。起身回熱。一四肢まらふのよゆら
くら。むらむらり。なる。彼醫者もむらり。なる。肉の合よ入。毒
つてまらふとて。むらら。り。ふあ。り。なる。ある。を。好。り。人。あ。る。あ。る。と。味。房
あて者まらふとて。先刻は後とて。あ。れ。ま。ら。り。ひ。の。あ。る。あ。る。と。あ。く
多くむらら。あ。の。あ。る。の。苦。し。も。り。た。醫。者。肩。は。敏。る。鞋。と。る。け。い。ら
が。ん。や。れ。湯。と。ら。る。は。河。脈。け。り。是。い。い。や。あ。る。と。事。と。ら。る
し。き。息。の。下。り。も。れ。鞋。を。河。脈。の。一。名。俗。語。く。是。を。サ。ケ。し。も。サ。ケ。ハ

胡粉とぬふるゆく音と假てちるぬん。もろねたりといひまじり
思ひけり。佛本行經卷第十四卷と云る。一牛王の。其
偈よ曰。世人皆取我之糞持用塗地為清淨。下界
七ゆる雪山の白牛ハ清き如ゆ。の糞と梅檀香等や合一泥とて
塗地也塗すあり。又南海寄席信よ。病ある者々。徳業。糞と糞湯
し号しての心美名と加ふ。以て。穢惡新極とのをり。うらひめて。天
地の氣をよけ。常め。は。装束けく。は。行の。至極の。變戒よし
れ。釋迦といふ。才徳の人あり。其教よく。長俗と云ふ。は。切あり
但一牛糞と云ふ。糞糞との。心國。凡者。と。ち。る。禮の。よ。ま。と。り。と
害と云ふ。と。と。め。の。あ。の。の。古。今。の。翻譯。人。凡。一。百。八。十。七。人。皆。誤。あり。と。

羅什の譯のよきと云ふ。胡國は産れ一人也といふ。天竺と云ふといふ
る。い。い。と。う。と。地。に。よ。く。還。て。笑。と。う。の。あ。り。と。

○大日本國と天照大神よりいへ。天皇不易の神國なるを今更わ
せり。い。ま。れ。よ。を。い。へ。神代前皇の道あり。君臣其位と易さるる
萬世民を能く名不測之道なるあり。と云ふ。と神代といふ。史記。卷。法。日本
書紀。孝德天皇。卷。子。輕。神。道。の。字。あり。續日本紀。三十七。桓武天皇。延
暦元年七月の文。神道難評し書れり。國史といひ。多し。い。文。字
た。と。い。唯。多。大日本の大道あり。別よ号と設なき。極をを。取。り。は
法。儒。教。々。天。竺。漢。土。の。教。あり。と。大日本の主教。ふ。あ。り。と。い。う。あり
也。の。字。儒。の。字。と。蒙。ら。し。む。る。は。や。く。神。代。常。い。は。只。大。道。と。の。い。ふ。

と云ゆち神代考のあり。宋儒教の一字と眼筋のどうと云ふ。上巻
の侍らるると新巧出の字一叙の字一叙は神代考のあり。侍替を
り結はの大社。その祭祀の法もその殿なり。侍りおれ。神代考
等の文義小疎。ゆゑに宋初日書記を撰りし。一品
舎人親王勅を奉て太安曆佐伯富士曆以下五人の儒考を令
て成らる。神史考もあらず。神史のこゝ。弘仁より康保の
まで。七の書中。中めくきと詳なり。紀傳明経の博士の任を。別は神
代考又々。神代考の出く詳し。書目いあ。神代考と云ふ。神
代考のあり。紀傳明経。明法。書道の。書道の儒の。神代考の
博士の。書道の。今も。神代考の。文字と漢史。小撰

して書らるもの。文字より。学考より。詳し。書目いあ。神代考と云ふ。神
代考のあり。紀傳明経。明法。書道の。書道の儒の。神代考の
博士の。書道の。今も。神代考の。文字と漢史。小撰

